

令和4年度

学校関係者評価報告書

令和4年12月

学校法人 中部学園

中部楽器技術専門学校

令和4年度 学校関係者評価報告書

学校法人 中部学園
中部楽器技術専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人中部学園 中部楽器技術専門学校 学校関係者評価委員会は「令和3年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1 学校関係者評価委員

(1) 委員

鈴木 武裕 (株)愛知銀行 執行役員
梶田 詩織 (株)ビュッフエ・クランボン・ジャパン 営業チーフ
矢木 敏喜 株式会社 矢木楽器店 代表取締役
松石 奉之 愛知県楽器商組合 組合長

(2) 事務局

角堀 雅信 中部楽器技術専門学校 学校長
早川 昌幸 中部楽器技術専門学校 進路指導部長
中村 大 中部楽器技術専門学校 教務部長

2 令和4年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1 教育理念 目標	●建学の精神のもと教育理念・目標を定め、音楽業界にとっても有益な人材の育成に努力している。	●教育理念等は、入学式やオリエンテーション等で保護者、学生に周知されているが企業等に対しても広く発信をしていく。
	●業界のニーズを発掘する場所として教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会における委員の方々から意見を取り入れている。	●業界のニーズの変化に対応するためには、ニーズに沿った教育課程の編成を迅速することが重要である
	●校訓「一技至誠」が学生・企業に浸透している。	
2 学校運営	●運営方針及び事業計画が策定されており、また運営組織やその意思決定の過程も明らかである。	●事業計画に沿った目標意識は、向上しつつあるも、今後は更なる理解と目標遂行に向けてのスキルアップが必要である。
	●教職員全員が事業計画に対する意識・実行を深めていく必要がある。	●教職員の組織体制の整備を充実し、情報システム等化による業務の効率化が図られるにすることが重要である。
	●運営組織・意思決定機関は効率的に機能しており、運営会議等も定期的開催されている。	

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
3 教育活動	●教育課程においては、「教育課程編成委員会」、「カリキュラム委員会」を導入後、着実な編成が見られる。	●教育課程の編成においては、多様化する時代の変化に沿ったカリキュラムの編成に取り組んでいく。
	●職員の能力開発分野においては、「ID研修」で学生指導の研修を行っている。また、実技の研修では、業界の専門音楽家等の実技研修も実施している。	●業界・社会が求める実践力を持った、学生を育成するための研修等を取り入れていく方針である。
		●令和2年度は、コロナの関係で研修等の実施回数が減少したがリモート研修も取り入れ新たな研修のスタイルができた。
4 学習成果・教育成果	●各学科の教育目標・育成人材像に向けての取り組みはなされている。	●学生の学修成果の評価に対する更なる向上を図る。
	●就職率の向上も教職員との情報の共有が図られている。	●就職率100%を目指し支援の改善を図っていく。
	●資格等の取得率の向上も図られている。	●学科の国家試験合格を在学中に取得できるよう努力していく。
	●卒業生の社会的な評価も卒業後の面談等で把握している。	●引き続き卒業生とのコンタクトを図っていく。
5 学生支援	●学生に対する修学支援も図られている。	●教員、学科、募集担当との連絡を密にして、一人一人の問題点を共有することが重要である。
	●就職・進学指導に関する支援体制も整備されている。	●更に充実した就職支援体制にするためには、就職支援室からの一方的なガイダンスだけでなく、クラス別での座談会などが必要である
	●学生相談に対する相談窓口の充実を図られるような体制を望む。	●学生に対するカウンセラーの充実を図っていく。
	●退学者の低減は重要であり、退学率の目標をもって推進を図られたい。	●退学者の低減については、教員が授業等で把握することも重要であり、その中で学生の悩み等を掘り起こしていくが重要である。
6 教育環境	●施設・設備等は新築校舎との関連もあり充実している。	●令和元年に新校舎が完成。設備等は充実している。今後は維持をしていく。
	●学内外の実習設備も充実している。	●インターン等については、コロナの関係で中断された部分もあったが4年度は充実していきたい。
	●防災・安全関連の体制も充実している。	●定期的に防災訓練も実行されている。警備システム等も指認証を導入し防犯体制の充実を図っていく。

3 総評

上記11項目に対し、委員による中部楽器技術専門学校の教育活動、学校運営の評価は、概ね良好であり、高い水準を維持していると思われる。

コロナ禍の為、学生の交流の場が減少したことについては非常に残念であるが、新しくリモート授業の部分が增加したことは、時代に沿った学習方法であったと思う。

教育課程の編成、実践的な教育等に、より一層の取組を期待するとともに学生の学力向上、時代に即した対応を継続していくことを望みます。